
角砂糖っておいしいんだよ？

ジョーカー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

角砂糖つておいしいんだよ？

【著者名】

ジヨーカー

N2186N

【あらすじ】

紅茶とコーヒーがただひたすら角砂糖について口論してるだけのトーク話。地文がありません。

(前書き)

紅茶…角砂糖大好きな人（人かよく分からない）

コーヒー…ミルク大好きな人（人なのかよく分からない）

こんな奴らでよろしければどうぞ…

紅「今日はお前に角砂糖のおこしを素晴らしく教えてやる。」

口「ん~、これ読み終わったら聞いてあげるから。それに俺、ミルク派だし」

紅「い・まー今聞かなきゃ聞かせてやんないんだからな!」

口「やうがー、それじゃあしかたないな

紅「聞いてくれるのかつ!」

口「諦めるよ。今はこれ読みたいし。知りたいと思わないし

紅「ガーンーちよ、ちよっと待つてよーなんでもいいでそんなのー?
?今のひじやあ聞いてあげるよ的な展開になるもんじやないのー?
?」

口「なんないよ。俺にそんな展開期待しないでよ。」

紅「今期待した俺が恥ずかしいーあの時の俺を返せー。」

口「返却不可能です」

紅「もうこーーー勝手に語るからー。」

口「ハア、…わかったから、聞いてあげるから」

紅「本当…？」

口「ああ。た・だ・し!十五分以内でな」

紅「うつ、そんなに短い時間で語れと…。ハッ!でもよ、それってどれだけ内容の濃いものを語れるかっていう角砂糖からの試練か!！」

口「いや、違うから。ちなみに一分たったよ?いいから早く語れ」

紅「はーい。まず、角砂糖のもつともポピュラーな形は立方体だけ、ハート型とか他にも色々あるんだよ。まあ俺は立方体が齧りやすくて好きだけど」

口「へえー、それは知らなかつた」

紅「1907年に松江春次によつて日本で初めて作られたんだ。偉大だよな!」

口「そつか…?まあ、最初に作ったのはすじこと思つよ」

紅「角砂糖は糖製度が高くて匂みが無いから、紅茶やコーヒーのような香りを重視する飲み物に使われることが多いんだぜ」

口「糖製度高いのってダメじゃない?太るし」

紅「そ、そんなことない!そんな」と言つたらミルクだつてそういうのかつ!」

口「でも、骨にいいし」

紅「角砂糖なめんな！角砂糖は疲れがとれるんだぞ！」

口「でもさ、知ってる？…といつ過ぎると体だけじゃなくて心まで狂うんだよ？」

紅「怖つ…な、何それ…お前知りたくないとか言つてたじやん！」

口「それはそれ、これはこれ。そういうことだからミルクね」

紅「うう…、わかったよ。ミルクを認めてやる…」

口「フッ」

紅「だが…角砂糖は最高だーーー！」

口「…やつがいいやつなのね」

(後書き)

もともとこの部のお題として投稿しようとして書いていたら、途中でデータが消え、

あーもうやめた！

となつたのを思い出し書きで書いた話でした。
俺個人として角砂糖が大好きですっ！
グダグダですみません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2186z/>

角砂糖っておいしいんだよ？

2011年12月7日22時50分発行